

## 4-3 日本の河川開発、過去・現在・未来

### 豊かだった日本の河川

日本の河川も、かつては、メコン河のように豊かだった。例えば、熊本県を流れる川辺川の漁師は、回遊の季節になると、「魚の頭で川が黒く見えたほどたくさんの魚が遡上してきた」と言う<sup>1</sup>。しかし、1960年代から始まった、経済の高度成長と産業化にともなう河川の汚染と、3,000か所ともいわれる水力発電所が全国にくまなく設置され、日本の川の生態系は、壊滅的な打撃を受けた。かつての面影のある河川はわずかで、四国の四万十川など限られた河川が残るのみである。

### 河川行政の歴史と変化

日本では、1896年、治水を目的に「河川法」が制定された。1964年に制定された「新河川法」は、治水と水利用を目的とした。その際、一水系をその中小河川までまとめて一貫管理するとし、一級河川<sup>2</sup>は国の管理下に、二級河川は都道府県の管理下に置かれることになった。

その後、河川法は、1997年に改正された際、環境悪化の深刻化、また、地域の個性を生かした川づくりへの市民の意識の高まりなどを受け、「環境保全」「地域住民の意見の反映」の観点を盛り込んだ。だが、日本の河川管理における住民参加は、まだ非常に弱い。日本が環境アセスメント法を施行したのは1997年で、国際的にも遅い動きだった。この法律では、環境アセスメントにおける、地域の伝統的な暮らしの尊重や、女性や少数者への特別な配慮は求められていない。また、絶滅危惧種の保全も明文化されていないため、ダム開発などの事業が希少動物の生息地を破壊することを規制できない。さらに、河川開発の計画を検討する場合は、ダム建設を推進する国土交通省が指名し、大学関係者が多数を占める「有識者」による会合であり、そこで多くの決定が下される。市民に発言の機会を認める場は少なく、十分に情報が公開されないのが現状である。

### 止まるダム、止まらないダム

アメリカ合衆国では、すでに、2000年頃から大型水力発電所の建設は行わず、環境回復のために既存のダムの撤去が始まっているが<sup>3</sup>、日本ではまだ大型ダムの建設が、治水などを理由に継続中である。だが、地域住民の抵抗も強くなり、建設は、大きな議論を呼ぶ。四国・徳島県木頭村（当時）の那賀川に建設予定だった細川内ダムは、30年にわたる住民の反対運動で建設されないまま、結局、2000年、計画は中止となった。九州・熊本県を流れる球磨川流域に予定されていた川辺川ダムも、同様に、地元などからの強い反対の声で、建設中止が決まっている。

一方、建設が進んでいるダムもある。その代表は、群馬県の八ッ場（やんば）ダムである。美しい景観で知られる吾妻渓谷に計画されているこのダムは、高さ116mの重力式コンクリートダムで、治水と上水道への水供給などを目的とし、4,100億円の予算を投じて建設される。しかし、当初予算は、約半分の2,110億円であった。2009年、自民党から政権交代を勝ち取った民主党が、「計画見直し」を選挙公約に掲げていたことから、建設中止への機運が高まっ

だが、結局、中止には至らなかった。このダム計画の歴史も古く、計画自体は、50年も前に立案されたものである。計画当初、強く反対した地元住民も、三世代にわたる論争に疲弊し、計画を容認するようになってしまった。建設予定地には、天然記念物のオオサンショウウオが生息するほか、貯水による水質の悪化なども懸念されている。もちろん、莫大な事業費も大きな問題である。

## 生態系の回復を目指した河川環境保全計画を

日本は人口減少期に入っている。にもかかわらず、公共事業の多くが、高度経済成長期に計画され、その後、適切な見直しも行われないうまま生き残っている。日本の累積債務は、今や1,000兆円に及ぶが<sup>4</sup>、八ッ場ダム計画にみられるように、今後も水需要が増えるという前提で、このような莫大な費用のかかる計画が進行しようとしている。過剰な施設の建設と維持管理の経済負担は、将来の世代が負担することとなる。

一方で、新しく構造物をつくるのではない公共事業も始まっている。その画期的な例として、熊本県・球磨川流域の下流で実施されている荒瀬ダムの撤去作業がある<sup>5</sup>。これは、日本ばかりか、アジア初の試みでもある。里山の見直しに続いて、生態系の回復を目指した河川環境保全計画の促進が期待されるところである。

<参考資料：英語>

National Park Service. Restoration of the Elwha River

<http://www.nps.gov/olym/naturescience/restorationoftheelwha.htm> (2013年9月10日閲覧)

<参考資料：日本語>

嶋津暉之 (2013) 「八ッ場ダムは使う当てのない水源だ」(ビデオニュース・ドットコム・インタビューズ、聞き手:神保哲生)

[http://www.youtube.com/watch?v=RpqqM-eN\\_JA&feature=youtu.be](http://www.youtube.com/watch?v=RpqqM-eN_JA&feature=youtu.be) (2013年9月1日閲覧)

八ッ場あしたの会「八ッ場ダム事業の問題点」

<http://yamba-net.org/problem/meisou/futan/> (2013年9月1日閲覧)

(木口由香)

- 
1. つる祥子氏(環境カウンセラー、八代市在住)の報告(2012年12月15日)。
  2. 国土保全上、または国民経済上、とくに重要な水系で、政令で指定された川。
  3. 北西部ワシントン州、オリンピック国立公園のエルワ(Elwha)川の例などが知られている。
  4. 『日本経済新聞』(2013年8月10日)の報道による。
  5. BP 4-2「荒瀬ダム撤去～日本で最初の発電用ダム撤去と河川の環境回復」を参照。